

第1回 匝瑳の魅力ある海岸づくり会議の結果概要

日時 平成23年12月10日（土）
午後1時30分～3時30分
場所 野栄総合支所2階学習室
参加者 委員
一般傍聴者：3人、報道関係者：0人

配布資料 会議次第
資料1 匝瑳の魅力ある海岸づくり会議規約
匝瑳の魅力ある海岸づくり会議 委員名簿
会議傍聴要領
資料2 東北地方太平洋沖地震津波について
資料3 九十九里浜の侵食状況
資料4 考えられる対策案
座席表
南九十九里浜養浜計画リーフレット

【議事内容】

1. 開会

事務局から以下の点について確認した。

- ・ 会議中の注意事項
- ・ 配布資料

2. 委員紹介及び委嘱書交付

市長より各委員に委嘱書を交付した。

3. あいさつ

匝瑳市長太田氏よりあいさつ

- ・ 台風、高潮などによって砂丘堤を越えて海水が保安林まで侵入して、人家にまで影響が及んでおり、厳しい侵食状況である。
- ・ 市内唯一の堀川浜海水浴場が平成21年の途中から閉鎖された。
- ・ 3月11日の大震災において地震・津波により海岸防護施設が破壊された。地域住民は不安を抱えている。
- ・ 海岸保全事業の早期実現を県にお願いし、早急に対応してもらっているが、その対応すら追いつかないほど侵食が進んでいる。
- ・ 早急に事業を執り行いたいため、県と合同で今回の会議を設立した。

- ・ 年内に沿岸地域の首長が集って海岸保全事業の変更について、話し合う「千葉東沿岸海岸保全基本計画検討委員会」が開催される予定である。私もその会議に参加する。本日の会議の内容もその検討委員会に反映したい。

県土整備部河川整備課長高澤氏からあいさつ

- ・ 海岸侵食の状況について、危機的な状況にある。
- ・ 侵食が続いており、護岸に直接波が当たっている箇所が増えている。
- ・ 今後の侵食対策について、皆の意見を聞いて取り組んでいきたい。
- ・ 事業費については社会状況として減少しているが、なんとか確保していきたい。

事務局から幹部の紹介

4. 会議の設立趣旨及び会議の進め方について

資料1をもとに事務局から説明

5. 議事

(1) 会長及び副会長の選任について

匝瑳市長が仮議長を務め、近藤委員を会長に宇多委員を副会長に推薦し、承認された。

近藤会長から会議にあたってのあいさつ

- ・ 本会議は防護、環境、利用、三位一体となった海岸づくりを目的としている。
- ・ 匝瑳の「魅力ある海岸づくり」とあることから、防護だけでなく利用も考えなければならない。
- ・ 子供たちの世代に、何が残せるか責任は重い。将来のことも考えて、何がやれるのか話し合っていきたい。

(2) 東北地方太平洋沖地震津波について

事務局から今回の津波で受けた被害などについて資料2をもとに説明

- ・ 飯岡漁港付近で撮影された津波の写真の様子を紹介。
- ・ 旧飯岡町の市街では、津波が緩傾斜堤を容易に乗り越えた。
- ・ 横根海岸付近では、水路の背後にある家屋が破壊された。
- ・ かんぼの宿「旭」付近で、陸上に津波が遡上している様子を自衛隊提供の斜め空中写真を用いて説明。
- ・ 蓮沼海浜公園付近で、土塁により被害が抑えられたものの、アクセスのための地盤が低くなっている箇所から波が侵入した。
- ・ 木戸川において川から津波が遡上して浸水被害が発生した。
- ・ 一宮海岸においても土塁はあったものの、アクセス確保のための通路から津波が進入した。
- ・ 各市町村から県に対する要望が出ている。匝瑳市からも平成23年9月21日に意見書が

提出されている。

- ・ 津波対策の現在の状況として、ハード対策とソフト対策、それぞれ委員会が設立され検討中である。

(3) 九十九里浜の侵食状況

事務局から九十九里浜の侵食状況について資料3をもとに説明

- ・ 九十九里浜について、過去の海水浴場として開設されていた時期の写真と、現在の侵食された状況の写真を紹介。
- ・ 2000年、2004年、2011年と徐々に開設できなかつた海水浴場の数が上昇している。
- ・ 九十九里浜の侵食経緯を近年(1947～)の空撮・汀線変化解析結果・模式図を用いて説明。
- ・ 現在の県の取り組みとして行っている、ヘッドランド事業の紹介。
- ・ 一宮の魅力ある海岸づくり会議の紹介。

(4) 考えられる対策案

事務局が考えられる対策案について、資料4をもとに説明

【意見・質問】

(会長)

- ・ 事務局から地震津波の説明、九十九里浜の侵食状況の説明、対策案の説明があった。資料に対して質問・意見はあるか。昔話・あるいは感想などでもかまわない。

(A委員)

- ・ 堀川浜は、10年ほど前は、砂浜に仮小屋を建てて海の家をやっていたが、現在は(充分な砂浜が無いので)海の家を陸側に、建てっぱなしにしている。
- ・ 感覚的には、100m以上侵食しているように感じる。
- ・ 侵食が進行し始めるもっと前に、このような会議を開いてもらいたかった。
- ・ 個人的に、全てが後手になっているように思う。旧野栄町時代に、既に侵食に対して危機感を感じていた。
- ・ 他地域でテトラポッド(消波工)を入れて侵食が止まったと聞き、自治体に陳情したが、漁業などの問題もあって反対された。現状として、民家から100mくらいのところまで波が迫っており危機的な状況なので、先生方には是非良いアイデアを出してもらいたい。

(B委員)

- ・ 大震災での津波被害が大きかったということだが、今回の会議目的は、昔の白砂青松のような海岸を戻すためのものなのか、震災(津波)被害を防ぐためのものなのか、対策の方向性が異なってくると思うので、明確にしておきたい。
- ・ 現在の護岸を直しても、すぐ自然の力で壊れてしまうのではないか？今の場所よりも後に作るべきではないか？
- ・ 津波が来た時は、河口に波が集まって大きなエネルギーとなって川を逆流して堤防を越

えてくるだろう。

- ・ 個人的には、津波対策を優先すべきと考えているがこの会議では、津波と侵食のどちらに力点を置いて議論していくのか？。

→(事務局)

両者はまったく関係ないということではないが、基本的には「侵食」の対策について重点を置いて議論を進めたい。

→(副会長)

津波対策を早急に実施していかなければならないのは、皆も分かっている。しかし、津波が来襲する前に護岸前面の海底地形が侵食によって深くなっていたりすると、いざ津波が来たときに防護施設としての機能を果たさなくなるので、津波対策だけでなく、侵食対策についても同時に(連動して)考えなければならない。

(C委員)

- ・ 里海を守るということは大切で、侵食と一体で考えなければならない。
- ・ 漁港ができればそこに砂がたまり、周辺が侵食していくのは当然の事である。
- ・ ヘッドランドを作って、本当に侵食が防げるのか、専門家の方から教えてもらいたい。
- ・ 県の説明を聞いていると、ヘッドランドの対策ありきを感じる。それしか方法がないのかもしれないが、数千年かけて砂浜を形成してきたのに、数十年で海岸が侵食したというのは、人為的な行為によるものだという事が露呈した結果だと思う。

(副会長)

- ・ 今の侵食原因は、指摘の通り、すべて人為的なこと。先ほどの海水浴場が閉鎖されたという話も当然の結果である。しかし、全てを否定することはできず、漁師や崖の上に住んでいる人、キャベツ畑を作っている人など、皆それぞれの思いで生活している(利用者がいる)。防波堤もその当時、皆の合意をもらった上で作っている。
- ・ 解決方法として、諦めるという方法もあるが、それでは会議自体の意味がない。また、ヘッドランド対策をしようにも、砂の量が少なすぎるので難しい。
- ・ 現在、北九十九里の1/3は護岸で埋め尽くされている。さらに、その護岸はほとんど陥没して機能せず、お金が無駄になっている。
- ・ 背後地には民家があるので、なんとかしなければならない。
- ・ 諦めてしまったらその時点でおしまいだが、望み少ない中で、なんとか意見を出して議論していく努力をしていく必要がある。地元の厳しい意見を、もっと言ってもらった方がよい。

(C委員)

- ・ 侵食は全国的に問題となっているが、日本のように海岸をこれだけ護岸で固めているところは他にもあるのだろうか？

(副会長)

- ・ 日本だけである。非常にづらい事だが、海外には日本のようにならないよう呼びかけている。

(会長)

- ・ 戦後の全国総合開発計画で漁港や港湾などがたくさん建設され、それによって日本の経

済が発展してきた。しかし、現在になって、ふと見ると砂浜が無くなり、人家に被害が及ぶまでに至っている。今回の会議のように、今、すごく重要な時期を迎えている。

- ・ この会議で、今後の海岸のあり方が変わる。

(D委員)

- ・ 7年前に地元の方に意見を伺った時は、当時の聞き方が良くなかったのかもしれないが、諦めモードだった。県も予算的に選択せざるを得ない状況にあり、南九十九里浜から侵食対策が始まったのが実情。
- ・ 行政が侵食原因について明言するようになったのは、ここ4、5年くらいのこと。千葉県は人間が海岸を変えてしまったと認めた全国でも数少ない県。他県では、台風や季節風のせいになっている。
- ・ 先ほど里海の話があったが、砂浜に漁港をつくった背景には、女性がおっぺしの厳しい労働の辛さから解放されるためであった事情もある。
- ・ 海の近くに道路や保安林を設けたことで、海岸への関心が薄れたという研究もある。地元の方が海岸をどのように見てきたか、それを知る上でも重要な会議であると思う。
- ・ 県がいろいろな方からそれぞれ要望を受け付けているうちに、結果的にバラバラな事業になってしまったという経緯もある。今後は、要望する側もバラバラにならないように何をしたいのかを整理しなければならない。
- ・ B委員から、対策の方向性について意見があったが、いままで侵食対策と津波対策が連動していないのが現状。今後、健康な砂浜の状態にすぐには戻せないかもしれない。何かをあきらめざるを得ないかもしれない。辛い会議にはなるだろうが、なんとかしていきたい。

(匝瑳市長)

- ・ 中座するがお許しいただきたい。お集まりいただいた皆様には貴重な意見、一言でもいいので頂きたい。(会議を)盛り上げていただきたい。

TV 生番組出演のため、途中退室

(B委員)

- ・ 海岸の護岸を造って侵食対策しているが、護岸が非常にもろい。見ていると、設計の基準が甘いのではないかと感じる。素人ながら見ていると、鉄筋も入っておらず、ブロックを積んだだけ。そんなもので良いのかと思う。コンピュータでシミュレーションできる時代であるにも関わらず。護岸を修復する時も同じ方法でやっている。もう一度見直していただきたい。
- ・ 松林は、昔は元気だった。今は弱っている。元気な木に戻していきたい。防風林なので、林が元気でないと周辺に住む住民を守れなくなる。災害時にも林があったおかげで波が弱まったということもある。松林についても見直していただきたい。

(E委員)

- ・ 一宮会議では、ヘッドランドを建設したことでかえって侵食したという記事をインターネット

で読んだことがあるが、実際はどうなのだろうか？

(F委員)

- ・ 昔は、裸足のままで海へ行けなかった(砂浜が広がったため)。今は、行ける。それほど砂浜が無くなったということだ。
- ・ 堀川浜にもヘッドランドが一本できているが、当時は 120m で作るという話だったが、現在は 80m である。津波で崩れ落ちている箇所もある。
- ・ ヘッドランドを建設したからといって砂浜ができるかというと、そうでもなく、潮の流れが四季により変わり、複雑である。

(G委員)

- ・ F委員の話のように、昔は砂浜があった。今は、海の家の前に砂を盛っているが、臭いがすごかった。
- ・ 工事の車両が、夜中の1時・2時に通るが地鳴りのような音が聞こえ、住民は我慢している。
- ・ 行政が一生懸命やっているのは分かっているが、もっと皆で協力してやって昔の海岸に戻したい。

(副会長)

- ・ B委員の話した護岸の設計基準については、指摘の通りでおかしい。あれは、砂浜があるところに作るのは良いが、砂浜の無い場所に何回作っても壊れてしまう。それは県でも承知している。しかし撤去するわけにはいかず、他のものを作るのにも予算が掛かる。この会議で新たなアイデアが出ることを期待したい。
- ・ E委員の話した一宮のヘッドランドと侵食の関係についてだが、侵食の原因はさまざまな影響で起こる。局所的に見ればその構造物の影響だと思われるだろうが、一概には言えない。例えば、飯岡では離岸堤の後ろに砂が堆積しているが、離岸堤の影響ではなく、漁港の 2km もある防波堤のせいで波が静穏となり砂が堆積している。それと同様のことが南側でも起こっている。
- ・ F委員の話した潮の流れについて、構造物で潮の流れは変わる。事務局もそういった点についてシミュレーションなどを駆使して回答できるように準備するべきである。丁寧にもう一つ問題を解決していく必要がある。

(H委員)

- ・ 防風林は長谷地区と吉崎地区にあまりない。もう少し早く開拓できなかつたかと感じている。

(会長)

- ・ 防風林・防砂林は別の管轄となっており、今回は海岸のみになるが、要望はまとめて別部署に伝える。今回の会議では対応できないが、今後対応できるようにしていきたいと思うので、意見は言っていたきたい。

(I委員)

- ・ 対策案について話があったが、匝瑳市会議の9月の項目を見ると請願の第一号に地震津波・海岸侵食に対して住民の生活を守るためにはどのような緊急対策が必要かというのをまとめた意見書を総理大臣・財務大臣・国交大臣に提出している。内容に則って会議も話し合えばいいと思う。
- ・ 海岸沿いの県道に自転車道路があるが、地震が来る前から大波注意と看板があり、大波がきたときに砂や砂利が入り込み、とても自転車が通れるようなものではなかった。吉崎地区については、高い堤防があるので被害はなかった。野手地区においては、そういう堤防がないので今回の大津波で大きく陥没した箇所が何個もある。波の力により、アスファルトが打ち上げられた箇所もある。今の段階で工事を進めてもまた同じことになるのではないかと思う。内容をよく検討して、意義のあるものにしていきたい。
- ・ 松林は、昔生い茂っていて海が見えなかったが、今は全部枯れてしまったため自宅の2階から太平洋が見渡せるようになってしまった。

(J委員)

- ・ 荒井委員と同じである。松林が全部枯れているので、どうにかしてほしい。

(会長)

- ・ 松林に関しては我々も何とかしたい。しかし海岸事業ではどうにもできない。会議の中で住民が言っていけば大きな力となる。どんどん言っていただきたい。

(K委員)

- ・ 匝瑳市は、サーフィンが出来る環境にあり、夏よりむしろ冬の方が波が良い。冬にサーファーの集客効果で匝瑳市で商売ができている部分もある。
- ・ 海岸の侵食状況を見ると、サーフィンが出来なくなることが懸念される。
- ・ サーファーとしては、砂浜があって波が良くなる方が良い。さらに駐車場等の設備があるとなお良いと思う。
- ・ 個人的な考えだが、波が良くなるには、ヘッドランドよりも海にまっすぐ伸びただけのもの(縦堤のみ)が良い。その間隔や長さで調整すれば砂が安定するのではないだろうか？
- ・ 海岸を護岸等の人工構造物で整備してしまうと、砂浜が戻らないように感じる。
- ・ 先ほど臭い砂が盛られたという話があったが、それも止めてほしい。
- ・ 砂がなくなると海水浴ができなくなる、ただ、防護重視で波を止めてしまうとやはりサーファー・観光客も来なくなってしまうと思う。

(C委員)

- ・ 今回検討する侵食対策は、結局技術論になると思うが、そうではなく地域づくりのような事も入れて議論していかないといけない。技術論だけになってしまうと住民は理解できなくなってしまうと思う。
- ・ おっペしをやっていた人たちは、漁港建設が悲願であったが、自然の力には弱い。事業者や研究者は自然に対して謙虚であってほしいと思う。

(会長)

- ・ 文化的な要素も大切にしたい。そういった点も併せて議論していきたい。
- ・ 海岸護岸等の施設は技術的な話になると思うが、砂浜や海岸のデザイン等は皆さんの意見を参考にしたい。
- ・ 昔の資料や写真などがあれば、紹介してほしい。
- ・ 利用と環境という要素が、整備の中に入っているので、そういうのを対策に入れていきたい。
- ・ 本日冒頭に見せてもらった写真のような海岸に、戻ったらいいと思う。

(副会長)

- ・ D委員が良い写真を持っているので、次回にもう一度昔の海岸をおさらいをしたい。
- ・ 県道 30 号より海側は、昔は住むべき場所ではなかった。そこは、もともと大波・津波が来ても大丈夫なようなバッファゾーンであった。しかし、人の住む場所では無かった場所に人は住んできた。
- ・ 保安林にしても、単に広げようということではなく、民家に飛砂が飛ばないために出来たものであり、矮小な理由で出来たものではない。
- ・ 砂浜が無くなったのは、侵食による汀線後退だけでなく、民家と保安林の前進の影響もある。
- ・ 今の状態はアンタッチャブル。場合によっては、セットバックすることも考えられるが、セットバックとなると行政内で猛烈な議論が起こる。管理区域が異なる間での調整は難しい。
- ・ B委員の話にあった護岸が壊れないためにはどうしたらいいか？に対して、先ほど砂をつければいいと答えたが、それには 2 通りの答えがある。護岸を後ろに下げるといふ考えと、砂を護岸前に付けるという考えがある。

(B委員)

- ・ 私は、護岸を後に下げた方が良く思っている。震災の話のときに土塁の話が出たが、昔は土塁(地元の人は「ぼっけ」と呼んでいた)がたくさんあったが、県道 30 号線をつくるのにその土塁の砂を大量に使った。
- ・ まずは、人命を守らなければならないので、地盤の低いところに盛土して応急処置してほしい。堤防は予算がかかるであろうが、土盛りならすぐにできるのではないかな？
- ・ 昔のようというより、今あるものを付け加えて今の生活も守りつつ海岸を守ることを考えたい。昔の事(対策)を追って行っても仕方がないと思う。

(D委員)

- ・ 今回の会議は市で開催しているが、海岸を変えるのは市町村しかいない。そこに住民から新しい案があれば、海岸ゾーニングの見直しがあるのではないかなと思う。
- ・ 県と市町村がパートナーシップをとることで、はじめて住民の意見は反映される。
- ・ この会議で、地元の声と経済性の議論もしていきたい。お金を従来の利権に縛られず、有効活用できる市は強い。
- ・ ぜひ、この会議で大きな決断をしていただきたい。

(会長)

- ・ 次回、清野委員から 15 分程度で、海岸の文化的な話を聞きたい。それを踏まえて、技術的な議論を進めたい。

(副会長)

- ・ 今回はネガティブな話を中心だったが、次回は事務局にはポジティブな話を少し盛り込んだ話をしてほしい。

(会長)

- ・ 事務局に、前向きな検討もお願いしたい。いろいろな話はあるが、事務局がどのようにまとめるか？あるいは解決するためには何が必要か？専門家(技術論)・管理者(法律)・地元(利用)に要望することも出てくると思う。次回までに県(市)の考え方をまとめてほしい。

(5) その他

事務局から連絡事項

- ・ 次回はシミュレーション等の結果を含めた内容で来年度の夏ごろに開催したい。

まとめ

- ・ 次回はシミュレーション等の結果を含めた内容で来年度の夏ごろを目処に開催することとする。
- ・ D委員から海岸の文化的・歴史に関する話をしていただく